

【出題意図】

問1

比較優位の原理を正しく理解し、分業のメリットについて正しく記述できるかどうか、を見る。下線部(1)直後の文章だけでは規定文字数に不足するので、それまでの文章から自分で適切に補う必要がある。

問2

自分の体験や見聞から、分業によってうまくいった事例や、改善が可能だったかもしれない事例について考えさせることで、作者の論旨を理解しているかどうか、自分のこととして捉えることができるかどうか、を見る。下線部(2)の直前の段落が、分業を妨げる要素の例なので、分業を促進する要素を考えるヒントとなっている。経営学の知識は必要ない一方、思いやりのような精神論に終始する場合は内容理解が不足している。また、分業化には役割の固定化という弊害があることにまで考察が及んだ場合は評価が高くなる。

【採点基準】

大きくは、次の4点に留意する

- ・理解力：問題文を適切に理解しているか。
- ・論理性：論理的に説明がなされ、結論が導かれているか。また独善的すぎず、柔軟性のある議論が展開できているか。
- ・思考力：自己の体験を盛り込むなど、主体的に取り組んでいるか。また独創的な側面を有しているか。
- ・文章表現力：文章にまとまりがあり、表現が適切でわかりやすいか。